

10. 運営費交付金債務及び運営費交付金収益の明細

(1) 運営費交付金債務の増減の明細

(単位：円)

交付年度	期首残高	交付金当期交付額	当期振替額				期末残高
			運営費交付金収益	資産見返運営費交付金	資本剰余金	小計	
平成21年度	115,176,548	-	0	0	0	0	115,176,548
平成22年度	314,689,898	-	124,031,272	29,663,550	0	153,694,822	160,995,076
平成23年度	224,281,798	-	64,977,394	0	0	64,977,394	159,304,404
平成24年度	-	7,810,851,000	7,791,877,118	12,336,130	0	7,804,213,248	6,637,752
計	654,148,244	7,810,851,000	7,980,885,784	41,999,680	0	8,022,885,464	442,113,780

(2) 運営費交付金債務の当期振替額の明細

① 平成22年度交付分

(単位：円)

区分	金額	内 容
業務達成基準による振替額	運営費交付金収益	0
	資産見返運営費交付金	0
	資本剰余金	0
	計	0
期間進行基準による振替額	運営費交付金収益	0
	資産見返運営費交付金	0
	資本剰余金	0
	計	0
費用進行基準による振替額	運営費交付金収益	124,031,272
	資産見返運営費交付金	29,663,550
	資本剰余金	0
	計	153,694,822
会計基準第81第3項による振替額	0	- (会計基準第81第3項による振替額は無い)
合計	153,694,822	

(注) 医療リハ・せき損については、自己収入により固定資産を取得しているため、それに係る費用等について、運営費交付金の収益化の取扱が本部及びその他（医療リハ・せき損以外）の交付金施設と異なっております。

② 平成23年度交付分

(単位：円)

区 分		金 額	内 訳
業務達成基準による振替額	運営費交付金収益	0	－（業務達成基準を採用した業務は無い）
	資産見返運営費交付金	0	
	資本剰余金	0	
	計	0	
期間進行基準による振替額	運営費交付金収益	0	－（期間進行基準を採用した業務は無い）
	資産見返運営費交付金	0	
	資本剰余金	0	
	計	0	
費用進行基準による振替額	運営費交付金収益	64,977,394	①費用進行基準を採用した業務：当機構の業務のうち、運営費交付金により財源措置がなされない労災病院事業及び看護専門学校事業、勤労者予防医療センター事業の業務経費以外 ②当該業務に係る損益等 ・本部及びその他（医療リハ・せき損以外）の交付金施設 ｱ) 損益計算書に計上した費用の額：64,977,394 （印刷製本費：4,078,440、消耗器材費：1,556,931 雑役務費：6,983,020、業務委託費：26,651,286 営繕費：24,593,838、その他経費：1,114,419） ③運営費交付金の振替額の積算根拠 ・本部及びその他（医療リハ・せき損以外）の交付金施設 費用64,977,394
	資産見返運営費交付金	0	
	資本剰余金	0	
	計	64,977,394	
会計基準第81第3項による振替額		0	－（会計基準第81第3項による振替額は無い）
合 計		64,977,394	

(注) 医療リハ・せき損については、自己収入により固定資産を取得しているため、それに係る費用等について、運営費交付金の収益化の取扱が本部及びその他（医療リハ・せき損以外）の交付金施設と異なっております。

③ 平成24年度交付分

(単位：円)

区 分		金 額	内 訳
業務達成基準による振替額	運営費交付金収益	0	－ (業務達成基準を採用した業務は無い)
	資産見返運営費交付金	0	
	資本剰余金	0	
	計	0	
期間進行基準による振替額	運営費交付金収益	353,011,420	①期間進行基準を採用した業務：看護専門学校事業、勤労者予防医療センター事業の業務経費 ②当該業務に係る損益等 ア) 損益計算書に計上した費用の額：777,001,097 (謝金：322,773,170、雑役務費：54,326,235 業務委託費：97,426,135、その他経費：302,475,557) イ) 自己収入に係る収益計上額：397,837,028 (医業収入：72,845,424、雑収入：324,896,271 その他収益：95,333) ウ) 固定資産の取得額：8,670,580 (器具備品等：8,670,580) ③運営費交付金の振替額の積算根拠 期間が経過したので、財源として予定されていた運営費交付金の計画額を収益化
	資産見返運営費交付金	8,670,580	
	資本剰余金	0	
	計	361,682,000	
費用進行基準による振替額	運営費交付金収益	7,438,865,698	①費用進行基準を採用した業務：当機構の業務のうち、運営費交付金により財源措置がなされない労災病院事業及び看護専門学校事業、勤労者予防医療センター事業の業務経費以外 ②当該業務に係る損益等 ・本部及びその他(医療リハ・せき損以外)の交付金施設 ア) 損益計算書に計上した費用の額：7,927,153,255 (役員人件費：4,104,912,147、謝金：1,183,154,905 賃借料：630,328,314、業務委託費：211,015,770 その他経費：1,797,742,119) イ) 自己収入に係る収益計上額：1,204,594,674 (雑収入：1,184,093,068、その他の収益：20,501,606) ウ) 固定資産の取得額：3,665,550 (器具備品等：3,665,550) ・医療リハ・せき損 ア) 損益計算書に計上した費用の額：4,763,448,343 (役員人件費：2,825,717,159、謝金：284,898,813 雑役務費：125,019,450、業務委託費：271,612,074、 材料費：787,721,109、その他経費：468,479,738) イ) 自己収入に係る収益計上額：3,976,276,236 (医業収入：3,954,876,716、雑収入：13,478,487、 その他収益：7,921,033) ③運営費交付金の振替額の積算根拠 ・本部及びその他(医療リハ・せき損以外)の交付金施設 費用7,927,153,255－自己収入等1,209,355,873 ＝6,717,797,382 ・医療リハ・せき損 費用4,763,448,343＋資産取得69,565,731－自己収入等4,111,945,758 ＝721,068,316
	資産見返運営費交付金	3,665,550	
	資本剰余金	0	
	計	7,442,531,248	
会計基準第81第3項による振替額		0	－ (会計基準第81第3項による振替額は無い)
合 計		7,804,213,248	

(注) 医療リハ・せき損については、自己収入により固定資産を取得しているため、それに係る費用等について、運営費交付金の収益化の取扱が本部及びその他(医療リハ・せき損以外)の交付金施設と異なっております。

## (3) 運営費交付金債務残高の明細

(単位：円)

交付年度	運営費交付金債務残高		残高の発生理由及び収益化等の計画
平成21年度	業務達成基準を採用した業務に係る分	0	－（業務達成基準を採用した業務は無い）
	期間進行基準を採用した業務に係る分	0	○期間進行基準を採用する業務は、当機構の業務のうち、看護専門学校事業及び勤労者予防医療センター事業の業務経費 ○計画どおりに本事業年度に実施すべき業務を実施し、対応する運営費交付金を収益化したため、運営費交付金債務の翌事業年度への繰越額は無い。
	費用進行基準を採用した業務に係る分	115,176,548	○費用進行基準を採用する業務は当機構の業務のうち、運営費交付金により財源措置がなされない労災病院事業及び看護専門学校業務、勤労者予防医療センター事業の業務経費以外 ○運営費交付金債務残高の発生理由は、経費節減・効率化に努めたこと等による経費の減少に伴い、運営費交付金の収益化額が計画を下回ったもの。（注：運営費交付金の収益化については、自己収入を優先的に充てることとしている。） ○翌事業年度に繰り越した運営費交付金債務残高については、翌事業年度以降で収益化あるいは資産見返運営費交付金に振替える予定である。
	計	115,176,548	

交付年度	運営費交付金債務残高		残高の発生理由及び収益化等の計画
平成22年度	業務達成基準を採用した業務に係る分	0	－（業務達成基準を採用した業務は無い）
	期間進行基準を採用した業務に係る分	0	○期間進行基準を採用する業務は、当機構の業務のうち、看護専門学校事業及び勤労者予防医療センター事業の業務経費 ○計画どおりに本事業年度に実施すべき業務を実施し、対応する運営費交付金を収益化したため、運営費交付金債務の翌事業年度への繰越額は無い。
	費用進行基準を採用した業務に係る分	160,995,076	○費用進行基準を採用する業務は当機構の業務のうち、運営費交付金により財源措置がなされない労災病院事業及び看護専門学校業務、勤労者予防医療センター事業の業務経費以外 ○運営費交付金債務残高の発生理由は、経費節減・効率化に努めたこと等による経費の減少に伴い、運営費交付金の収益化額が計画を下回ったもの。（注：運営費交付金の収益化については、自己収入を優先的に充てることとしている。） ○翌事業年度に繰り越した運営費交付金債務残高については、翌事業年度以降で収益化あるいは資産見返運営費交付金に振替える予定である。
	計	160,995,076	

(単位：円)

交付年度	運営費交付金債務残高		残高の発生理由及び収益化等の計画
平成23年度	業務達成基準を採用した業務に係る分	0	－（業務達成基準を採用した業務は無い）
	期間進行基準を採用した業務に係る分	0	○期間進行基準を採用する業務は、当機構の業務のうち、看護専門学校事業及び勤労者予防医療センター事業の業務経費 ○計画どおりに本事業年度に実施すべき業務を実施し、対応する運営費交付金を収益化したため、運営費交付金債務の翌事業年度への繰越額は無い。
	費用進行基準を採用した業務に係る分	159,304,404	○費用進行基準を採用する業務は当機構の業務のうち、運営費交付金により財源措置がなされない労災病院事業及び看護専門学校業務、勤労者予防医療センター事業の業務経費以外 ○運営費交付金債務残高の発生理由は、経費節減・効率化に努めたこと等による経費の減少に伴い、運営費交付金の収益化額が計画を下回ったもの。（注：運営費交付金の収益化については、自己収入を優先的に充てることとしている。） ○翌事業年度に繰り越した運営費交付金債務残高については、翌事業年度以降で収益化あるいは資産見返運営費交付金に振替える予定である。
	計	159,304,404	

交付年度	運営費交付金債務残高		残高の発生理由及び収益化等の計画
平成24年度	業務達成基準を採用した業務に係る分	0	－（業務達成基準を採用した業務は無い）
	期間進行基準を採用した業務に係る分	0	○期間進行基準を採用する業務は、当機構の業務のうち、看護専門学校事業及び勤労者予防医療センター事業の業務経費 ○計画どおりに本事業年度に実施すべき業務を実施し、対応する運営費交付金を収益化したため、運営費交付金債務の翌事業年度への繰越額は無い。
	費用進行基準を採用した業務に係る分	6,637,752	○費用進行基準を採用する業務は当機構の業務のうち、運営費交付金により財源措置がなされない労災病院事業及び看護専門学校業務、勤労者予防医療センター事業の業務経費以外 ○運営費交付金債務残高の発生理由は、経費節減・効率化に努めたこと等による経費の減少に伴い、運営費交付金の収益化額が計画を下回ったもの。（注：運営費交付金の収益化については、自己収入を優先的に充てることとしている。） ○翌事業年度に繰り越した運営費交付金債務残高については、翌事業年度以降で収益化あるいは資産見返運営費交付金に振替える予定である。
	計	6,637,752	